



オンプレミスから さくらのクラウドへの移行を解説！

ユースケース、費用例、移行プロジェクトを進めるヒントまで



この資料の役割

この資料では、オンプレミス環境からのリプレイスや、ハイブリッドクラウド化をご検討中のご担当者様へ向け、国産クラウドとして初のガバメントクラウド認定を受けた「さくらのクラウド」へ移行するメリット、移行手段をご紹介します。また、実際にご相談を受けた事例から、移行の際に陥りやすい課題を抽出し、その解決方法なども掲載しました。ぜひ貴社プロジェクト推進の検討材料となりましたら幸いです。



はじめに

アイティーエムは、さくらインターネットグループの一員であり、クラウド事業・サイバーセキュリティ事業を展開しています。
さくらのクラウド構築やマイグレーションはもちろん、課題や状況によっては構築後の監視運用からセキュリティ対策までワンストップでご支援させていただきます。

ON - PREMISES



CLOUD





目次

01	アイティーエムの特長	04
02	オンプレミス環境からクラウドへ移行する際のメリット／デメリット	06
	オンプレミスとクラウドでのハードウェア運用負担比較	07
	オンプレミス環境からクラウドへ移行する際のメリット	08
	オンプレミス環境からクラウドへ移行する際のデメリット	09
03	さくらのクラウドを選定するメリット	10
	さくらのクラウドを選定するメリット	11
	こんなケースは要検討	12
04	オンプレミス仮想化環境からクラウドへの移行方法3つとその特徴	13
05	ユースケース オンプレミス仮想化環境からさくらのクラウドへの移行	15
	ユースケース オンプレミス仮想化環境からさくらのクラウドへの移行	16
	ユースケース オンプレミス仮想化環境からさくらのクラウドへの移行作業	17
06	料金シミュレーションによるコストダウン効果の検証	18
	オンプレミスのコストとさくらのクラウド利用のコスト比較	19
07	課題解決の方法と注意点	21
	移行中に発生しやすい課題とその対策	22



アイティーエムの特長

クラウドの構築・移行だけでなく運用、セキュリティ対策までワンストップで対応いたします。



アイティーエムの特長

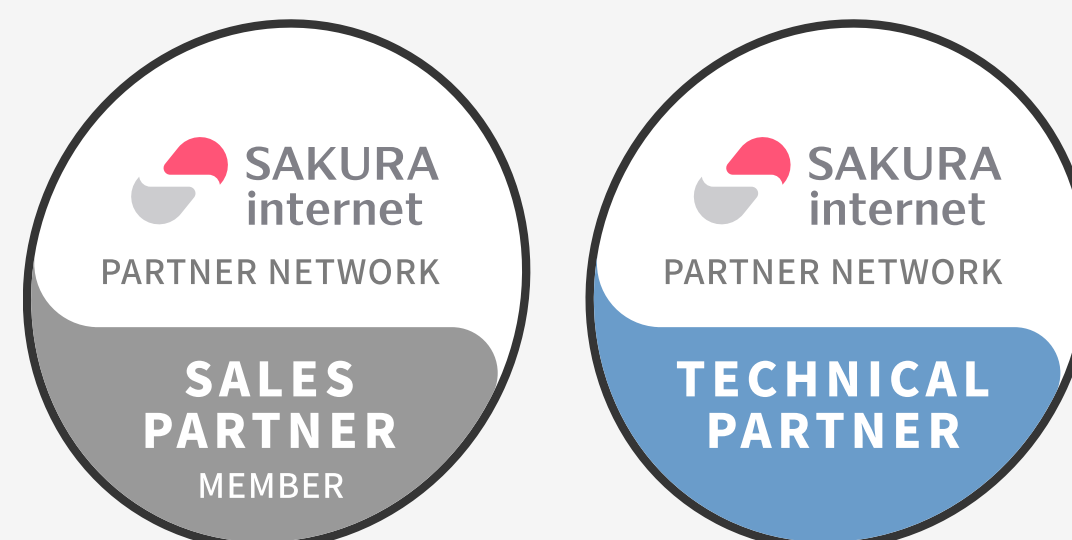
ご検討にあたっての課題やご相談など、お気軽にお問合せください。

01



さくらインターネット
グループ

02



さくらのクラウド公式
セールス&テクニカルパートナー

03



約30年にわたるITインフラ支援実績
をもとに、クラウド&サイバーセキュ
リティソリューションを提供



オンプレミス環境からクラウドへ移行する際の メリット／デメリット

オンプレミスで運用しているサーバのリプレイス、維持コストの削減など様々な理由でクラウドへの移行を考えるケースは多くあります。
まずは、クラウドへ移行した際のメリットとデメリットを整理してみましょう。



02

オンプレミスとクラウドでのハードウェア運用負担比較

	オンプレミス	クラウド	
利用者	業務活用（手動・自動）	業務活用	クラウド操作用 Web画面・API
		（手動・自動）	
サーバ	アプリケーション	アプリケーション	
	セキュリティ/アクセス権管理	セキュリティ/アクセス権管理	
	ミドルウェア	ミドルウェア	PaaS/SaaS
	OS	OS	
	仮想化層	仮想化層	
	物理設備	物理設備	
	データセンタ設備	データセンタ設備	
構築・運用	構築、改修	構築、改修	構築、改修代行
	運用	運用	運用代行
	セキュリティ	セキュリティ	セキュリティ診断

お客様の調達リソース

クラウド提供リソース

クラウドサービスで利用・選択可能

クラウドへの移行でコストダウンできる、というのは大きなメリットの一つではありますが、移行の際には十分な調査と検討が必要であると言えます。

02 オンプレミス環境からクラウドへ移行する際のメリット

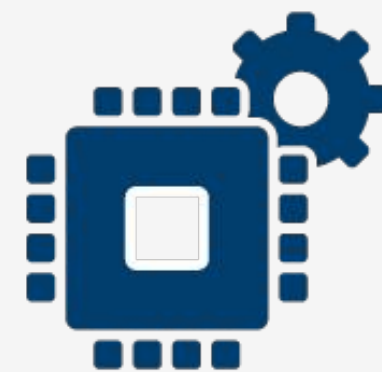
merit 01



調達コストと工数を スリム化

クラウドサービスはインフラの初期投資が不要で、導入までの工数も少なく済むため、迅速にシステムを利用開始できます。

merit 02



ハードウェアの維持管理の 負担が大幅に軽減

サーバやストレージの管理はクラウド企業側の責任範囲のため、企業側でのハードウェア管理やメンテナンスが不要になります。

merit 03



スケーラビリティが向上

クラウドでは需要に応じてリソースを簡単に拡張・縮小できるため、柔軟な運用が可能です。

merit 04



可用性の継続的強化

クラウドサービスではデータのバックアップを複数の拠点でとるなどのリスク管理を行っており、万が一の災害時にもデータが守られるため、災害によるリスクを軽減できます。



02

オンプレミス環境からクラウドへ移行する際のデメリット

demerit 01



カスタマイズの 自由度が減る

外部システムと連携するケースなど特定のニーズに対するカスタマイズの柔軟性が低くなる場合があります。

demerit 02



既存システムとの連携が できない可能性がある

既存のオンプレミスシステムで利用しているソフトウェアやデータベースがクラウドサービス側でサポートされていない場合、連携ができないことがあります。

demerit 03



クラウドに適した セキュリティ対策が必要

クラウド環境で発生するセキュリティインシデントの多くは、クラウドサービス利用にあたっての設定ミスが原因となっています。利用にあたってはオンプレミスとは異なるセキュリティ対策が必要です。



さくらのクラウドを選定するメリット

次に、クラウドサービスの中からさくらのクラウドを選定するメリットとデメリットを整理してみましょう。



03

さくらのクラウドを選定するメリット

merit 01

データ転送量による従量課金なし

一般的なクラウド料金で多いデータ転送量による従量課金がないため、想定外の出費となることがありません。
時間割・日割・月額料金のうち利用期間に応じた最安の価格が適用される分かりやすい料金体系となっています。

merit 02

為替による料金変動なし

国産のクラウドサービスのため、為替の影響を受ける心配がありません。

merit 03

災害対策と信頼性

複数リージョンに環境を作ることで災害や障害からの復旧、バックアップからの復元が可能です。

merit 04

障害発生におけるリスクを回避

万が一ホストサーバ上で障害が発生した場合も、独自のフェールオーバー機能により他のホストサーバ上で仮想サーバが自動復旧しサービスが継続されます。

merit 05

シンプルで使いやすい コントロールパネル

直感的なUIと「インフラの見える化」を実現したマップ機能が特長で、インフラ管理をスムーズに行うことが可能です。

merit 06

国産クラウドで初めて ガバメントクラウドに選定

「さくらのクラウド」は国産クラウド事業者として初めて ガバメントクラウド認定を受けています。
※2025年度末までに技術要件をすべて満たすことを前提とした条件付き認定



03 こんなケースは要検討

Consider 01

海外拠点がある場合

リージョンが日本のみのため、海外拠点での利用が想定される場合は、海外クラウドの併用（マルチクラウド）を検討する必要があります。

Consider 02

方針が未確定の場合

CDNやオブジェクトストレージなどIaaS以外のいくつかのサービスも提供していますが、海外大手クラウドサービスと比較するとサービスの種類や構成パターンに限られます。あらかじめ移行の目的と、移行後の運用方針を明確にしておくことが重要です。

Consider 03

連携が必要な場合

オンプレミス環境からクラウドへの移行は、初期コストや運用負担を軽減し、リソースのスケラビリティや可用性の向上が期待できます。一方で、移行の際には既存システムとの連携や移行後のセキュリティ対策について十分に検討する必要があります。

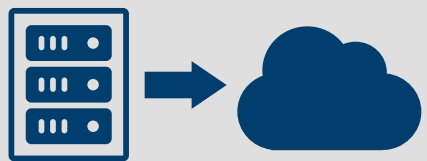


オンプレミス仮想化環境から クラウドへの移行方法3つとその特徴



オンプレミス仮想化環境からクラウドへの移行方法 3 つとその特徴

オンプレミス仮想化環境からクラウドへ移行する手段はいくつかありますが、代表的な方法 3 つをご紹介します。

	 クラウドリフト 仮想マシンの一部を そのままの構成でクラウドに移行	 クラウドシフト クラウド上でゼロから仮想マシンを構築	 クラウドサービス提供側の移行ツール利用 クラウドプロバイダが提供する 専用の移行ツールを使用
メリット	• 移行が比較的簡単で迅速 • 既存の構成やアーキテクチャをほぼそのままクラウドに移行可能 • ダウンタイムが少ない場合が多い	• クラウド環境に最適化されたアーキテクチャが設計可能 • スケーラビリティやコスト効率の向上が期待できる • クラウドの新しい機能を最大限活用できる	• 自動化されているため、効率的に移行可能 • ダウンタイムの最小化が可能
デメリット	• クラウドのスケーラビリティやコスト最適化のメリットを最大化できない	• ゼロからの構築が必要で時間とコストがかかる • 移行前に十分なプランニングとテストが必要	• プロバイダーのツールに依存するため、柔軟性に欠ける場合がある

※さくらインターネット株式会社が提供するさくらのクラウドへの移行ツールは2025年2月にβ版をリリースしております。

一部環境のクラウドシフトからはじめて段階的に移行する方法、あるいはハイブリッドクラウド環境やマルチクラウド環境を利用するケースもあるかと思います。次の章では、実際にさくらのクラウドへ移行する際のユースケースをご紹介します。



ユースケース オンプレミス仮想化環境から さくらのクラウドへの移行

05 ユースケース オンプレミス仮想化環境からさくらのクラウドへの移行

課 題

コストを軽減し
運用を効率化したい



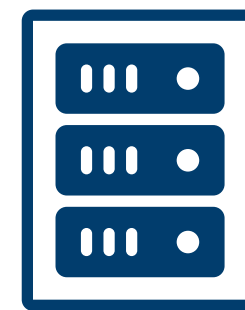
オンプレミスのサーバ（仮想化基盤）でシステムを稼働させているが、管理の負担とコストがかかっている。
これを解決して業務の効率化を図りたい

解決策

オンプレミス仮想化基盤を
さくらのクラウドへ移行する



ハードウェアの維持管理、
ハイパーバイザーのライセンスのコストをカット



サーバ管理の負担軽減により
メインの業務に集中できる

構成例

オンプレミスサーバ上の社内システムを
クラウドサーバへ移行



以下のページにてオンプレミス環境で社内システムを稼働している企業の方に向けて、クラウド(IaaS)へ移行した場合の構成例をご紹介します。

<https://case.sakura.ad.jp/format/955/>

※さくらインターネット株式会社のサイトへ遷移します。



ユースケース オンプレミス仮想化環境からさくらのクラウドへの移行作業

一般的に、移行は以下のどの領域からでも実施可能です。

	一般的に対応可能な領域					アイティーエムなら移行後の運用や改善までサポート！	
	要件定義 アセスメントにて現状のヒアリングと要件の整理	基本設計 ヒアリング内容を基に設計を実施	詳細設計 基本設計を基にパラメータの設計を実施	環境構築 詳細設計に基づき構築を実施	試験 試験内容の認識合わせ→試験表を作成→試験を行い結果をご報告	運用 構築後の運用、監視の実施	改善 インフラ、セキュリティ、パフォーマンスに関する課題解決
A社	○	○	○	○	○	×	×
アイティーエム	○	○	○	○	○	○	○



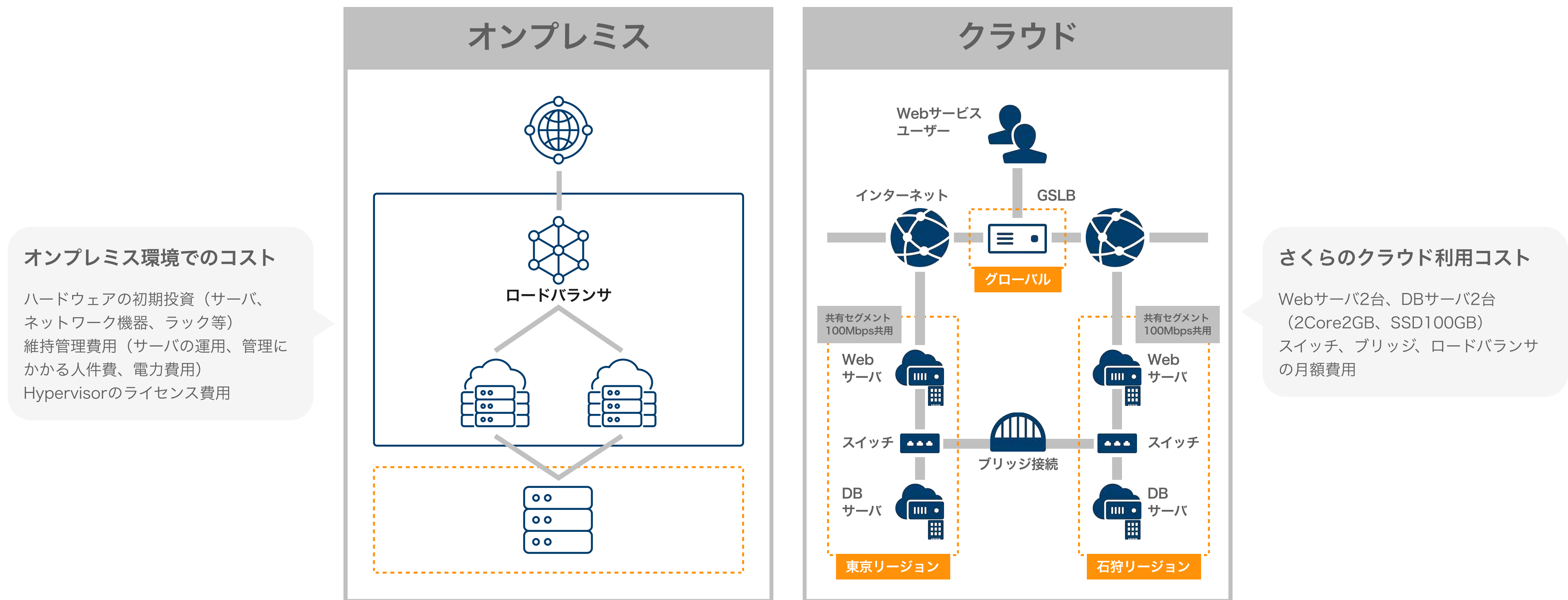
料金シミュレーションによるコストダウン効果の検証



06 オンプレミスのコストとさくらのクラウド利用のコスト比較

以下の構成例をもとに、概算の一例を考えていきます。

Webサーバ2台（仮想化環境）、ロードバランサ、DBサーバ1台の構成





オンプレミスのコストとさくらのクラウド利用のコスト比較

以下の構成例をもとに、概算の一例を考えていきます。

要 素	オンプレミス	さくらのクラウド
初期費用（サーバ、機器）	数十万～数百万円	なし
運用コスト（年間）	数十万～数百万円（電力・人件費など）	45～50万円程度*
Hypervisorライセンス費用	数十万円～数百万円	なし
メンテナンス・管理	技術者が必要	クラウドサービスによる管理
スケーラビリティ	限定的	高い（自動スケーリング）

※サーバ 2Core2GB、ディスク SSD100GBで試算

あくまで一例なので、費用は条件によって異なりますが、クラウド環境では、ハードウェアの初期投資とメンテナンスや管理のコストが削減可能です。
また前述したように、さくらのクラウドでは、クラウド移行後のコスト増大の要素となりやすいデータ転送による従量課金がない点は大きなメリットと考えられます。



課題解決の方法と注意点

07 移行中に発生しやすい課題とその対策

自社システムに複雑なカスタマイズを行っている場合、クラウド上での動作や連携が困難になる可能性があります。

事前に念入りな計画を行う必要があります。

クラウドに詳しい人材がいない

クラウド移行、また移行後の運用にあたって専門知識や経験のある人材がいない場合に、考慮すべきことが漏れている可能性があります。

総合的なアセスメントやアドバイザリーを行い
具体的なサービスを提供できるパートナーと伴走することで
安心安全な移行を実現できます



おわりに

アイティーエムは、クラウドとサイバーセキュリティを事業の柱とし、
構築・移行支援から移行後の運用、セキュリティ対策までワンストップでご提供可能です。

お気軽に相談ください。

<https://www.itmanage.co.jp/contact/>

